

「政策の目標」

組織運営の方針 5：政策評価の着実な実施、業務運営の在り方や所管する法人の見直し等による効果的・効率的な行政運営

(評価書 405 頁)

評 価 意 見

評価基準ごとの審査

評価の判断理由等

1 「政策の目標」の達成度

A 達成に向けて相当の進展があった。

業績指標	目標値	実績値
財務省予算監視・効率化チーム会合の開催状況	4回	4回

(達成度に係る評価の理由等)

平成23年度政策評価書については、より客観的で分かりやすいものとし、職員の事務負担を軽減するために、記述の簡素化や参考指標の統廃合が図られている。

平成25年度政策評価実施計画については、政策目標の設定根拠となる政府の方針等の見直しが行われ、本文の簡素化、明解な記述及びより質の高い業績指標の設定がなされている。

政策評価の基本計画等については、従来の基本計画等の内容に加え、政策評価の改善方策の記述等を盛り込んで策定している。

政策評価書の作成や政策評価実施計画の策定等の際には、省内において政策評価担当者会議を開催するとともに、学識経験者等の知見を活用している。

諸外国の財務省の政策評価制度に関する調査を実施することにより、政策評価の改善に努めている。

また、財政当局として、予算編成、税制改正、関税改正、財政投融资編成の過程において、各府省の政策評価の結果を適切に活用しており、財務省所管の予算要求においても、政策評価結果が確実に反映されるよう努めている。

公共調達効率化、効果的・効率的な組織・定員管理や経費の有効活用等に取り組みつつ、所管の独立行政法人については政府全体の方針に沿って行政改革に取り組んでいる。

以上のように、国民に分かりやすく、かつ政策の改善に資する政策評価の実施や、更なる経費の効果的・効率的執行の徹底が図られたことから、「A 達成に向けて相当の進展があった。」と評価した。

2 事務運営のプロセスの適切性、有効性、効率性

適切であった。
有効であった。
効率的であった。

(事務運営プロセスに係る評価の理由等)

(適切性)

政府の方針等の見直しを行い、平成24年度政策評価実施計画の変更を行っている。また、租税特別措置等の政策について、税制改正作業において有効に用いられるよう、適切なタイミングで評価を行っている。

競争性のない随意契約を、原則として競争性の高い契約方式（一般競争入札等）に移行することにより、公共調達の適正化を進めている。

(有効性)

経理担当者会議を通じて経費削減等に関する周知徹底等を図り、経費のより効果的な執行に努めている。

(効率性)

政策評価の作業に際して、「政策評価担当者会議」を開催することにより、各部局との調整が図られるなど、効率的な作業が行われている。

定員合理化を実施し、定員数の削減を図る一方で、必要な定員数については、新規増員により措置したほか、既存人員の振替、業務運営の効率化などにより、効果的・効率的な組織・定員管理が行われている。

3 結果の分析的確性

おおむね的確に行われている。

(結果の分析的確性に係る評価の理由等)

評価に当たっては、業績指標や参考指標を使用しつつ、各施策の具体的な実施状況の記述に努めている。

<p>4 当該政策や、政策評価システムの運用の改善への提言</p> <p>政策について提言がなされている。 政策評価について有益な提言がなされている。</p>	<p>(今後の提言等)</p> <p>(政策の改善)</p> <p>評価の充実や国民に分かりやすい実施計画、評価書の作成等に努めることとしている。</p> <p>また、平成25年度以降も、定員合理化に取り組みつつ、新たな行政需要等に対応するために、要員配置の重点化・効率化を図り、効果的・効率的な組織運営に取り組むこととしている。</p> <p>(政策評価の改善)</p> <p>平成25年度政策評価実施計画において、業績指標として新たに「参考指標を評価意見に活用した政策の目標数」、「新たに業績指標を設定した政策の目標数」を設定している。</p> <p>引き続き、目標の達成度をできるだけ定量的、的確に判断できるよう、業績指標の適切な設定及び評価意見への参考指標の活用等について、検討を進めることとしている。</p>
<p>講評 (平成25年6月「財務省の政策評価の在り方に関する懇談会」)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ Aと評価とされたことに関しても肯定的に感じる。 ○ 今まで、「適正」「適切」と記載していたものを具体化したことは良い。 ○ 目標設定時の問題として、政策の進展を評価することに相応しい数値目標が少なく、「何々に取り組む」「何々を推進する」といった表現に留まっている。これでは、客観的な評価ができず、次年度の改善に結び付く問題点を見つけ出すことも難しい。 ○ 業績指標が明らかにバツなのがいい評価になっているような場合が幾つかある。それは評価が悪いというよりも、実施計画策定時の業績指標の設定の仕方がちょっとまづかったのではないかと。 業績評価の主要な内容と業績指標がずれている場合、参考指標への簡素化も検討すべきではないか。 ○ 前年度と今年度の評価の達成度を比較することは、あまり意味がないと考える。当年度の目標に対してどうだったのか、達成できなかった理由は何で、来年度にどう修正していくか、といった取組が重要である。 ○ 参考指標の活用にあたり、目標の内容により関係が深い参考指標を作成し、活用してほしい。 ○ 「7. 今後の政策等に反映すべき事項」について、評価結果を踏まえて、具体的に次に何をすべきかを記載すべき。 ○ アンケート調査について、例えば来場者にアンケートをした場合、来場者がどれだけ、その中でアンケートに答えてくださった方はどれだけ、そのうちの満足度というのが、母集団から見た場合どれぐらいなのかというのが書かれてあるほうがいいのではないかと。 ○ 国民が非常に大きな関心を持っている東日本大震災への対応を分かりやすく見事にまとめていると思う。 東日本大震災への対応に係る細かな内容について、財務省ホームページなどにおける情報へのアクセスにも配慮願いたい。 ○ 多くの「政策の目標」がB評価となっている「組織運営の方針」に関しては、果たして「目標」の内容を具体化しているのか、「目標」達成のためのプロセスが明確になっているのか、という疑問が改めて湧くところである。 ○ 諸外国の政策評価制度の調査について、調査の結果がどれくらい活かされたのか。調べたことがどれだけ活かされたのかということが見えてくるともっとよくわかるのではないかと。 ○ 「業務プロセス改革計画」と実績評価とが連動した試みをしてはどうか。